

技
の肖像

世界3大メーカー、ベーゼンドルファー社製のグランドピアノを調律する伊藤正男さん

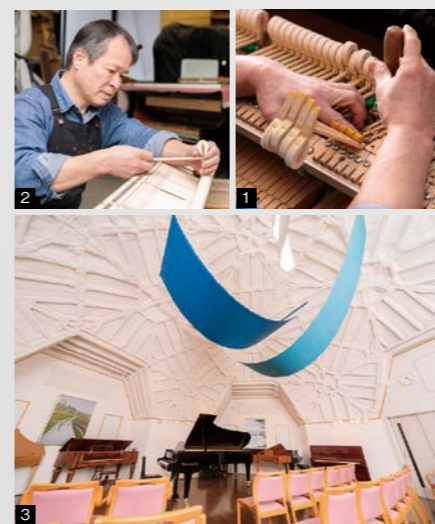
ピアノ調律師

鍵盤を押すと、連動したハンマーが金属弦をたたくことで美しい音を奏でるピアノ。その音をベストな状態に調整する職人がピアノ調律師である。

ピアノは、設置される環境や時間経過とともに音に狂いが生じる。そこで調律師は、2つの鍵盤を同時に弾き、音を聞きながら「チューニングハンマー」を使って弦の張りを調整。この作業をすべての鍵盤で行って、本来の音に戻している。

「ピアノの調律では、自分の耳だけが頼りです。ピアノはもちろん、様々な音を聞きながら感性を磨いています」

そう話すのは、大和町にピアノ工房を構える伊藤正男さん。調律以外にも、鍵盤の弾き心地を調整する作業や、音量や音色を整えるため弦をたたくハンマーをメンテナンスする作業があるという。



1. 弦をたたくハンマーの動きを調整し、それぞれの鍵盤のタッチを均一にする 2. 劣化や消耗した部品を交換し、きちんと修理を行えば50年以上は使い続けることができるという 3. 自宅兼工房に隣接する木造ドームでは、修理したピアノの音の最終確認を行うほか、コンサートホールとして地域住民が音楽を親しむ場となっている

子どもの頃から音楽とものづくりに興味を持っていた伊藤さん。弱視であったことから山形県立山形盲学校の高等部でピアノ調律を学び、卒業後にピアノメーカー系列の代理店で調律師として働いたという。「仕事をしているうちに、ピアノのメンテナンスや修理にもっと深く関わりたいと思うようになり、世界的に有名なピアノメーカーの輸入代理店に転職しました」

静岡県内の代理店で14年間、ピアノの解体や部品交換などの技術を一通り身に付けた伊藤さんは、生まれ育った東北で仕事をするため、大和町に移り独立した。

「ピアノは長く使うほど、設置場所や演奏者になじんできます。お客様にとってかけがえない存在であるピアノを預かり、本来の音を引き出すことが、私の使命だと思っています」と静かに語った。

問い合わせ
仙台ピアノ工房

黒川郡大和町吉岡南 2-3-3
TEL 022-344-3277
https://sendai-piano.com/

Report
技能士を
育てる。

宮城県内の企業には、優れた技術を持つ多様な技能士が活躍する。宮城のものづくりを支える匠たちを、企業がどのように育て、技を伝えているのかを紹介する。

株式会社阿部蒲鉾店
(仙台市)

1935年創業の仙台名産笹かまぼこの老舗。「笹かまぼこ」の名称は、同社の創業者が、伊達家の家紋にちなんで命名したものが後に一般化された。吟味された上級のすり身を原料に、伝統製法と高い加工技術で一つ一つ丁寧に笹かまぼこを作っている

創業以来80年以上にわたり、綿々と受け継がれている株式会社阿部蒲鉾店の笹かまぼこづくりの技。その中心を担うのが、水産練り製品製造技能士の資格を持つ職人たちである。技能士たちは、材料となる魚のすり身の仕込みから成形、焼きなどの工程において、すり身の魚種やその日の温度・湿度などを考慮し、五感を使って作業の時間やタイミングを判断しているという。

「とにかく私たちは、温度に非常に気を配っています。室温はもちろん、手から伝わる体温によってすり身が温まってしまうと、笹かまぼこの食感や風味が悪くなってしまいます」と生産部次長の渡邊正広さんは説明する。

同社では、年に1回行われる技能検定受験希望者を対象に、実技試験の訓練を実施。同社の技能士が指導役となって「板かまぼこ」や「なると」の成形について教えている。このほか、受験に係る費用を一部負担するなどのサポートも行う。技術指導を担当する加納健二さんは、「私も、先輩職人から多くのことを学んできました。毎年若い職人が入社しているので、早く一人前になってくれるように、自分の知識と技術をできる限り伝えていきたいです」と話した。

創業からの伝統技を継承する蒲鉾職人

技能士 MEMO

水産練り製品製造技能士

かまぼこ、ちくわ、はんぺんなど水産練り製品製造に必要な知識や技能を持つことを証明する国家資格を有する者を指す。

かまぼこ製品製造試験（実技試験）

水産練り製品製造技能検定の実技試験では、生魚コースと冷凍すり身コースの2つから選択し、かまぼこの成形作業などを行う作業試験と、かまぼこ製品の品質判定などを行う要素試験を受ける。

企業情報

所在地：仙台市青葉区中央 2-3-18
TEL 022-222-6455
FAX 022-222-1533
泉工場：仙台市泉区明通 4-10
https://www.abekama.co.jp/



事業内容：蒲鉾の製造販売
技能士数：30人（2018年2月現在）
技能職種：水産練り製品製造



1 実技試験訓練の様子。2級水産練り製品製造技能士の加納健二さん（左）が、受験希望者にかまぼこの成形作業を指導する 2 「練り包丁」と呼ばれる道具を使って板かまぼこを成形する 3 巻き簾（まきす）を使ってなるとを成形する 4 原料と製法にこだわった同社の笹かまぼこ 5 「機械化が進む現在でも、職人が手作業で行う工程や製品があります」と話す生産部次長の渡邊正広さん